

あとがき

1979年の最初の号をお届けします。新年早々にも発行する予定でしたが、発行間近になって、この際あれもこれも入れようと予定外のものを含めたために若干遅くなりました。何号か前のあとがきで、ニュース誌としての速報性と内容の充実との相反する要素の悩みについて述べましたが、速報と言う点だけを考えても編集上の悩みはあります。情報や資料の“流れ”はほぼ連続であって、どこで区切ってその号をまとめるかと言う問題があります。定期誌なので発行時期で機械的に切るのが通例ですが、編集の最終段階で新たな重要な資料や情報が入ると、3~4カ月前の次の号になるよりはそれも含ませた方がよいと言うことになって印刷を延ばしているうちにまた新たなものが入ってくると言った具合です。たゞ原稿を追加する位とお考えかも知れませんが、2~3枚の原稿を挿入して全体を整え直すのにも意外に手間のかゝるもので、他の仕事との間隙を縫ってこの編集をやっていると一寸したことが切っ掛けとなってずるずると延びてしまうわけです。どうも言訳がましくなりましたが、私共の反省も含めて実状を述べさせていたゞいた次第です。

なお、前号および前々号のあとがきで、シグマ委員会のワーキング・グループの活動状況の記事を近く載せる旨予告しましたが、今回も実現できませんでした。実は、そのような計画をしていたところ、本号の話題Ⅳで挙げた核データ研究会が最近行われ、その時に各ワーキング・グループ活動についての報告がありそれが近くJAEERI-Mレポートにまとめられることになったため、重複して執筆していたゞくのもどうかと考え見合わせることにしました。

(浅見)

編集者 浅見 哲夫, 大竹 幸江